The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	COVID-19パンデミック下の活動記録
Author(s)	宇野田, 尚哉
Citation	越境文化研究イニシアティヴ論集. 2021, 4, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/85133
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

COVID-19 パンデミック下の活動記録

宇野田 尚哉

ここに発行するのは，大阪大学大学院文学研究科越境文化研究イニシアティヴの論集である。本研究グループについては 2019 年度発行の第 3 集ですでに紹介してあるので，ここでは 2020 年度の活動について紹介したうえで，本論集の内容について説明を加え，今後の展望などについても記しておくこととしたい。

まず，本プロジェクトも COVID-19 パンデミックの影響を受け，2020 年度は十分な活動ができなかったことを率直に記しておかねばならない。もともとの計画では，2020 年度には大阪で対面の国際会議を開催して研究成果をまとめる目途をつけていく予定にしていたが，結局そのような会議を開催することはできず，配分していただいた研究費も旅費として執行することを予定していたため大半が未執行となってしまった。授業やその他の校務のオンライン化にともない，研究活動もオンライン化していったが，なかなか本プロジェクトとして即応することは難しく，活動が滞ってしまった期間が長かった。その後，現在では，本プロジェクトの背景となった 2 つの研究グループが，それぞれほぼ月例でクローズドのオンライン研究会を開催するというかたちで，活動を継続しつつある。そのような事情もあり，この第 4 集には国際会議の成果等を掲載することはできなかったが，幸いにも多くの方が関心をお寄せくださり，本プロジェクトの関係者およびすぐ次に述べる GJS プログラムの修了者の個別の論考をもってこの第 4 集の前半を構成することができた。

ところで，文学研究科は，2017 年度以来，大阪大学全体に対して，大学院等高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ（英語名 Global Japanese Studies）」（http://www.let. osaka-u. ac.jp/ja/academics/fukupuro_GJS，略称 GJS プログラム）を提供している。本研究グループの代表である宇野田は同プログラムの実施責任者であり，本研究グループの中心的な構成員の一人であるニコラス・ランブレクト助教は同プログラムの英語科目の担当教員であるから，本プロジェクトは実質的に同プログラムと深く関係しており，第 1 集以来，本論集は，同プログラムの報告書を兼ねている。本論集には，2017 年度以来同プログラムを基盤として開催している Graduate Conference in Japanese Studies の口頭発表に基づく論文を掲載しており，この第 4 集にも，2019 年度に引き続き国際日本研究

コンソーシアムからの支援を受けて開催した Graduate Conference in Japanese Studies 2020 での口頭発表に基づく英語論文を掲載した。Xinyi Wang さん，Xuanjing Wang さん，Park Keunmo さんの論文がそれにあたる。この場をかりて，支援を賜った「国際日本研究」コンソーシアムに謝意を表しておきたい。なお,「国際日本研究」コンソーシアムについては同コンソの HP（https://cgjs.jp/）を，Graduate Conference in Japanese Studies 2020 についてはランブレクト助教の一文を参照されたい。

COVID-19 パンデミック下の 2020 年 12 月 1 日，大阪大学に,「グローバル日本学教育研究拠点（Global Japanese Studies Education and Research Incubator，略称 GJS-ERI）」が設置された。詳しくは同拠点の HP（http://www.gjs.osaka-u.ac.jp/）を参照していただくしかないが，今後は，同拠点において,「日本」に関わる教育研究の学際的・国際的・社学連携的展開が推し進められることとなる。すでに前述の Graduate Conference in Japanese Studies 2020 は大阪大学大学院文学研究科・グローバル日本学教育研究拠点・「国際日本研究」コンソーシアムの共催というかたちで開催されており, GJS プログラムも同拠点の協力のもと 2021 年度からは人文社会科学系の全部局が参画するかたちで充実化されることとなっている。本プロジェクトと GJS プログラムが連動するかたちで開催してきた Global Japanese Studies Research Workshop も 2021 年 1 月以降は日本学拠点の事業として開催されることになった。COVID-19 パンデミックの影響により 2020 年度中に十分な成果をあげることのできなかった本プロジェクトも，すくなくともその一部は，2021 年度以降，日本学拠点の研究拠点形成事業の一環として継承していきたいと考えている。その見通しについては，おってなんらかのかたちで告知したい。

最後に，日本学拠点設置前の過渡期に開催した 2 度のワークショップを記録に留めておく。手探り状態で開催したハイブリッド（対面＋オンライン）形式の会議にご協力くださったみなさんにあらためてお礼を申し上げたい。

2020 年 7 月 21 日，**Global Japanese Studies Research Workshop** 開催（於大会議室）

Stimulating Global Japanese Research Communities

NICHOLAS LAMBRECHT (Assistant Professor, Graduate School of Letters, Osaka University)

2020 年 9 月 25 日，**Global Japanese Studies Research Workshop** 開催（於中庭会議室）

Navigating Global Japanese Studies through Latin American Connections

FACUNDO GARASINO (Postgraduate Resercher, Graduate School of Letters, Osaka University)